資料3

平成29年度パイロット事業

パイロット事業の概要（着荷主）

1　待機時間、取卸し作業時間の抑制に向けた実態把握

類型	実態
取卸しまでの構内待機時間が長時間化	○受付時間は、各事業者が判断するため、受付開始時間6時30分以降に特に集中している。 ○発注量に対して、当日何台の車両が入る予定にあるか十分に把握されていない。 →納入事業者ごとに受付時間の指定はない ○取卸し貨物量に関係なく、受付順でバース接車の許可連絡が入る。（少量貨物の場合には別途バースあり） ○1車当たりのバース滞留時間が長い。その原因は、取卸した貨物が荷捌きスペースにあるが、取卸しスペースが狭く、当該スペースが空くまで待機するケースがある。これは貨物を自動倉庫へ搬入するリフト数が4人（午前・午後ともに）と限られていることが原因となっている。
検品作業待ちの待機時間が長時間化	○荷役作業員のうち、検品を担当する作業員は4人であり、通常期、繁忙期も同人数である。 ○検品作業が完了し、伝票を手交されるまでバースを離れられない。そのため、貨物量の多くなる繁忙期には、検品作業が長時間化し、1台当りのバース滞留時間はさらに長時間化する傾向にある。 ○特に繁忙時期においては、1台当りの貨物の取卸し量が増加するが、一方で着荷主における荷役作業の処理能力は、通常期と同水準のため、1台当りのバース滞留時間が長時間化し、待機時間がさらに長時間化する結果となっている。

２　今後の方向性を踏まえた取組内容

類型	今後の方向性	実証実験の取組事項（想定案）
取卸しまでの構内待機時間が長時間化	○特に繁忙期における改善取組が求められる。 ①受付時間の分散化：受付場所での受付時間順の対応を見直し ②荷卸し品目による取卸し作業の順番を予め設定（時間指定）	①受付場所での受付から、受付順番管理システム導入 ②繁忙期は荷卸し時間を時間延長する（開始時刻：6:30→5:00、受付終了時刻：14：00→17：00） ③荷卸し品目による受付時間、取卸し予定時刻の指定 ④翌日の入門予定車両を連絡させ、品目、量を踏まえ、入門時刻を指定（朝方集中化する車両の受付時間の分散化）
検品作業待ちの待機時間が長時間化	○取卸し作業完了後、荷役作業員による検品作業完了、伝票回収までの待機時間を削減する。 （バース回転が悪化する要因）	①取卸し作業後、検品完了、伝票を手交するまで待機させない。即バースを出させ、検品伝票は当日各事業者へファックスで送信。 ②繁忙期は、検品作業員、倉庫作業員を増加。 ③倉庫内保管を考慮した荷姿による納品の徹底。

3　本事業のスケジュール

○ 本年度の実施スケジュールは以下の通りである。

平成29年6～7月	平成29年7～8月頃	平成29年9～12月頃	平成29年1月頃

パイロット事業の方向性の検討

パイロット事業

改善成果の取りまとめ

第1回検討会

①事業場訪問

第2回検討会

②事業場訪問

第3回検討会

○改善方策の提起
・現場実態の共有化
・問題・課題の共有化
・改善方策の提起と意見交換
・取組スケジュール
・取組の役割分担

【パイロット事業】
・改善方策の実施可能性の検討
・改善方策の実施

②事業場訪問

○改善成果の把握
・運転日報等による情報収集
・効果の把握
・改善方策や今後に関する意見交換等

○改善成果のまとめ
・報告書案について意見交換